



社会福祉学部教員の教育活動
(教育研究活動年度報告書)

川崎 育郎

Ikuro KAWASAKI

○研究活動

(1) 臨床活動

スクールカウンセラー活用調査研究事業におけるスクールカウンセラー

高知市の中学校でスクールカウンセラーとして臨床活動を行い、生徒、保護者や教員などへのカウンセリングを定期的実施する。(2006年4月～2007年3月)

高知県内の保育園・幼稚園、小学校・中学校からの相談を受け定期的に心理治療的援助を実施する。(2006年4月～2007年3月)

子ども相談室 香南市教育委員会の協力を得、ゼミの学生と共に子ども相談室を開き、保護者からの相談を受け子どもや保護者にカウンセリングなどを実施する。

(2006年4月～2007年3月)

日本自閉症協会高知県支部夏季療育キャンプの講師(2006年8月)

(2) 講演や研修会講師

高知市教育研究所 研究会助言者(2006年4月～2007年3月)

高知市障害児担当者研修会講師「障害のあるこどもの保育について」

高知県立ふくし交流プラザ 高知市主催(4月)

高知市立大津保育園園内研修会講師 高知市主催(6月)

平成18年度 家庭教育相談研修講座(初級コース)講師「子どもの発達と心理的特徴」

高知県教育センター 高知県教育委員会主催(6月)

高知市立中野保育園園内研修会講師 高知市主催(6月)

高知市立種崎西保育園園内研修会講師 高知市主催(7月)

十津保育園(高知市)保護者研修会「子育てにおいて大切なこと」PTA主催(7月)

子育て支援者交流会講師「子どもの心の発達と不適応行動」すこやかセンターいの

高知県教育委員会・高知県中央西福祉保健所主催(8月)

平成18年度 家庭教育相談研修講座(中級コース)講師 「カウンセリング」

高知県教育センター 高知県教育委員会主催(①9月23日、②9月30日)

高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座講師

「障害のある幼児の理解と発達 援助」Ⅰ(10月)・Ⅱ(11月)・Ⅲ(11月)

高知市立南海保育園園内研修会講師 高知市主催(12月)

○教育活動

(1) 講 義

1. 「臨床心理学Ⅰ」
2. 「臨床心理学Ⅱ」
3. 「カウンセリング論」
4. 「カウンセリング演習Ⅰ」
5. 「カウンセリング演習Ⅱ」
6. 「障害児発達学」
7. 「心理検査法」
8. 「社会福祉専門演習Ⅰa」

9. 「社会福祉専門演習Ⅰb」
10. 「社会福祉専門演習Ⅱa」
11. 「社会福祉専門演習Ⅱb」

臨床心理学Ⅰ・Ⅱは選択科目であるが学生の関心は高く、8期生全員が臨床心理学ⅠとⅡを受講した。7期生もほとんどの学生がⅠとⅡを受講した。学生の受講態度は良好であり事例の話やビデオには強い関心を示し、講義の理解に大きな役割を果たしたようである。障害児発達学は、社会福祉学部の2回生と3回生(編入生)と看護学部1回生が受講した。選択科目であったが、社会福祉学部2回生は全員受講し、障害のある子どもへの関心の強さが窺われた。看護学部の1回生もほとんどの学生が受講し、熱心に聴講した。当講義においても、学生の評価では事例の話とビデオが大変参考になったようである。

学生達は、講義形式の授業も熱心に聴講したが、心理検査法、カウンセリング演習Ⅰ、カウンセリング演習Ⅱのロールプレイやゼミの研究発表、討議などにも強い学習意欲を示した。社会福祉専門演習Ⅰa,b(ゼミ:3回生5名)では文献を用いて児童の理解や援助における基本的なことを学習させた。12月には東海地方の情緒障害児短期治療施設と同志社大学での研修を実施した。社会福祉専門演習Ⅱa,b(4回生)では、そのまとめとして卒業研究論文を作成させ、その指導を行った。本年は7名のゼミ生の卒業研究論文の指導を行った。ゼミにおける教育の一環としてゼミ生(3,4回生)を定期的な相談活動に参加させ臨床的経験(養育者との面接や児童とのプレイなど)を与え児童の問題に対する理解を深めさせた。

(2) 留学生の教育指導

高知県教育委員会より派遣された国内留学生(小学校教諭)1名を受け入れ、研究指導を1年間行った。

指導期間:平成18年4月~平成19年3月

研究テーマ「特別支援教育に関する研究 発達障害のある子どもの学校生活について」

○委員会活動(学部委員会を含む)

1. 高知女子大学評議会 評議員
評議員として大学運営に参画
2. 社会福祉学部人事委員会委員
3. 社会福祉学部入試委員会委員
4. 地域創成センター委員
地域創成センター推進会議に学部代表として出席。
5. 4回生学年担当代行(4月~7月)

○社会的活動

(1) 学会での活動

日本心理学会専門別議員
日本感情心理学会理事
中国四国心理学会理事

(2) その他(各種委員会委員など)

高知県児童福祉審議会委員長
高知県福祉基金理事
高知県青少年問題協議会委員

教育研究活動年度報告書

社会を明るくする運動 高知県実施委員会委員
不登校対策ネットワーク整備事業 評価委員
高知県・高知市スクールカウンセラー
香南市教育相談活動相談員
高知県臨床心理士会 監査

○総合的評価及び今後の課題

教育的活動や社会的活動について概ね計画していた活動ができたと思われる。研究活動の内臨床的活動において、さまざまな不適應な状態にある子どもへの心理治療的援助や障害のある子どもへの発達の援助と、それぞれの家族や保育者・教員へのカウンセリングのニーズが数多くあった。緊急性や必要性の高い内容が多く、研究活動の重点を相談活動におくことになった。臨床活動にゼミ生を参加させ実際の経験をさせたことは、学生の教育には多大な効果があったように思われる。今まで積み上げてきた臨床経験を授業に役立たせ、地域貢献にもより生かせるようにしたい。

前山 智

Satoshi MAEYAMA

○研究活動

(1)内外の研究活動

放射光利用分析技術や半導体材料に関する最新の動向を調査するため、「SPring-8 ワークショップ」、「応用物理学関係連合講演会」、「環境知能シンポジウム」に出席した。

○教育活動

講義

1 「コンピュータリテラシー」(共通教育情報科目)

永国寺キャンパスの第1情報演習室ならびに池キャンパスの情報演習室において、新入生を対象とした8クラス(文化学部4、看護学部2、社会福祉学部2)を担当し、Windowsの基本操作とワープロソフトWordならびに表計算ソフトExcelの操作を中心に実習形式で授業を行った。看護学部と社会福祉学部の授業は前期と後期の2クラスに分けて授業を行っていたが、前期に一律に基本操作を習得させることを目的として、両学部の授業は2クラスとも前期に終了させることにした。

2 「情報と社会」(共通教育情報科目)

池キャンパスにおける後期の講義を担当。

3 「福祉情報演習」(社会福祉学部専門科目)

コンピュータリテラシーの続編として位置付けて、WordとExcel操作のステップアップとプレゼン用ソフトPowerPointの操作を実習形式で授業を行った。

4 「特別講義V(データ解析論)」(大学院人間生活学研究科共通科目)

修士論文発表会の日程との兼ね合いもあり、開講せず。

○委員会活動

1 運営会議、評議会

社会福祉学部長として大学運営に参画。

2 社会福祉学部教授会

議長として教授会を開催し、大学運営会議や評議会の審議内容や決定事項を報告すると共に、大学の方針に則って社会福祉学部の運営を司った。

2 全学学部入試実施委員会、全学入試委員会、全学就職委員会

社会福祉学部の入試委員を統括し、社会福祉学部の入試方法の改善や円滑な実施に努めた。また、県内の各高校を訪問するとともに、進学相談会に積極的に出席して、社会福祉学部のPRと志願者の確保に努めた。

3 学部人事委員会

議長として、昇任人事を検討し、教授会に提案した。

○社会活動

1 高知県社会福祉審議会委員長

2 高知保護司選考委員

3 高知県ふくし交流財団生きがい・健康づくり推進協議会委員

教育研究活動年度報告書

4 身体障害者施設アドレス 苦情解決第三者委員

○総合評価と課題

社会福祉学部長の職務と担当授業が中心で、研究には時間が割けていない。

教育面では、共通教育の情報科目を主に担当しているが、今年度の新入生からは全員高校で「情報」を必修科目と学んでいる。事前アンケートで高校の情報科目で学んだ内容などを調べてみると、高校によって情報科目への取り組み方が異なる。今年度の「コンピュータリテラシー」では、これまでの内容をマイナーチェンジして授業を行ったが、大学の共通教育の情報科目で何を学ばせればよいのかを検討し、さらに授業内容を改善していくことが必要である。また、「情報と社会」においても、インターネットが生活インフラとなったことに対応するために情報倫理についての内容を強化することが必要である。

住友 雄資

Yuji SUMITOMO

○研究活動

①学術論文

なし

②著書

杉本敏夫・住友雄資 (2006) 『改訂 新しいソーシャルワーク』中央法規出版.

住友雄資 (2006) 「地域居住施設化への課題と展望－障害者福祉施設」日本地域福祉学会編『新版 地域福祉辞典』中央法規出版, 464-465.

住友雄資 (2006) 「地域居住施設と地域社会」日本地域福祉学会編『新版 地域福祉辞典』中央法規出版, 468-469.

住友雄資 (2006) 「サービスの選択支援と権利擁護」日本地域福祉学会編『新版 地域福祉辞典』中央法規出版, 478-479.

住友雄資 (2006) 「精神保健福祉分野の権利擁護から地域福祉へ」日本地域福祉学会編『新版 地域福祉辞典』中央法規出版, 494-495.

住友雄資・田中英樹・谷中輝雄編 (2007) 『改訂 精神保健福祉援助技術総論』中央法規出版.

住友雄資 (2007) 「精神保健福祉士に必要な共通技術」石川到覚・藤井達也・谷中輝雄編『改訂精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版, 286-288.

住友雄資 (2007) 「契約・介入」石川到覚・藤井達也・谷中輝雄編『改訂精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版, 289-294.

住友雄資 (2007) 「面接」石川到覚・藤井達也・谷中輝雄編『改訂精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版, 295-303.

住友雄資 (2007) 「記録」石川到覚・藤井達也・谷中輝雄編『改訂精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版, 304-309.

③学会等発表

なし

④その他

住友雄資 (2006) 「養成校紹介コーナー 高知女子大学社会福祉学部」『精養協通信』No. 2, 8-10.

住友雄資 (2006) 「教育と研究にこだわり続ける」『響き合う街で』No. 39, やどかり出版, 65.

住友雄資 (2007) 「大学研究室紹介 高知女子大学社会福祉学部」『情報誌プラットフォーム』No. 232, 高知県産業振興センター, 3.

⑤外部資金獲得

文部科学省科学研究費・基盤研究 (C), 「精神障害者の地域生活支援を実現するための住居確保に関する実証的研究」280万円 (2004年10月～2007年3月)

教育研究活動年度報告書

○教育活動

[学部]

- ・「社会福祉基礎演習Ⅰ」
- ・「福祉科教育法Ⅰ」
- ・「福祉科教育法Ⅱ」
- ・「事例研究法」
- ・「ケアマネジメント論」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ－a」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ－b」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ－a」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ－b」

[大学院]人間生活学研究科（修士課程）

- ・ソーシャルワーク論
- ・課題研究演習（主査：4名，副査：1名）

[大学院]健康生活科学研究科（博士後期課程）

- ・精神障害者福祉論
- ・社会福祉特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（副査：9名）

○委員会活動

[学部]

- ・教務委員長
- ・FD委員長
- ・人事委員

[大学院]人間生活学研究科（修士課程）

- ・学位審査委員長

[大学院]健康生活科学研究科（博士後期課程）

- ・学務委員（社会福祉学領域）
- ・入試実施委員

[全学]

- ・教務副委員長

○社会的活動

[学会や審議会など]

精神保健福祉士試験委員（2006年7月～）

日本社会福祉学会 査読委員

日本精神障害者リハビリテーション学会 理事兼機関誌編集委員（～2006年11月）

日本社会福祉教育学校連盟 評議員兼企画委員

日本精神保健福祉士養成校協会 理事兼事務局次長兼広報委員長

高知県社会福祉審議会委員長（2007年1月～）

高知保護司選考委員（2007年1月～）

高知県精神医療審査会（2006年7月～）

[講演など]

省略

○総合評価と課題

私個人としては、学部教育と大学院教育（修士課程・博士後期課程）を両立することで大変な一年であったという印象をもっている。多忙を極めたというのが正直な気持ちである。もちろんよい教育のためにも、忙しいということを理由にせず、自分自身の研究活動もきちんとこなしていきたい。

学部全体としては、教員の平均年齢が低くなり、若手主体の教員組織になった。フットワークが軽くなり、活動的な教員組織になったと思う。ただし学部の教育・研究活動の基盤を再構築していくこととなり、私個人としてはスーパービジョン的な業務が増えてきている。

田中 きよむ

Kiyomu TANAKA

○研究活動

(1) 著書

田中きよむ『改訂版 少子高齢社会の福祉経済論』中央法規出版、2006年5月

(2) 論文・報告書

田中きよむ 「少子高齢化のもとでの持続的な福祉システムの方向—制度改革の動向と問題点—」中小商工業研究所『中小商工業研究』第88号 (pp. 31-44) 、2006年5月

田中きよむ 「社会の発展と人間の発達—アマルティア・セン (Amartya Sen) に学ぶ—」『人間発達研究所紀要』第18/19号 (pp. 57-74) 2007年3月

田中きよむ 「障害者自立支援法の内容と問題点」『障がい者福祉における公的責任と県立リハビリテーションセンターの役割を考えるシンポジウム』報告書』 (pp. 3-20) 2006年6月

田中きよむ 「高知市潮江地区における道路を活用した防災・福祉型まちづくりの研究」『高知大学人文学部研究プロジェクト研究成果報告書』(田中きよむ、中澤純治、平岡和久、青木宏治の共同研究で田中が執筆担当) (pp. 37-45) 2006年7月

○教育活動

(1) 学部

(専門教育)

1. 社会保障論 I・II
2. 社会福祉行財政論 I・II
3. 社会福祉専門演習 I—a・b
4. 社会福祉専門演習 II—a・b
5. 公的扶助論 I・II
6. 社会福祉法制論

(共通教育)

1. オムニバス「土佐の健康と福祉」
2. オムニバス「福祉の世界」

(2) 大学院

(修士課程)

1. 福祉行財政論
2. オムニバス「人間生活福祉政策論」
3. 課題研究演習 I・II

○委員会活動

- ・ (学部) 人事委員会委員
- ・ (全学) 入試監査委員会委員
- ・ (全学) 総合情報センター運営委員会委員

○社会的活動

(委員等)

- ・高知県社会教育委員
- ・福祉サービス第三者評価事業推進委員
- ・運営適正化委員会委員
- ・地域福祉活動推進委員会委員
- ・高知市社会福祉審議会委員
- ・土佐清水市地域福祉計画アドバイザー
- ・日高村地域福祉活動計画アドバイザー
- ・本山町地域福祉活動計画アドバイザー
- ・須崎市地域福祉計画アドバイザー
- ・高知県立身体障害者リハビリテーションセンター移管協議先選定委員会委員
- ・高知県地域福祉研究会代表
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡協議会会長
- ・社会福祉法人理事・第三者委員、NPO 法人理事・理事長
- ・「高知の移動サービスを考える会」世話人

(講演等)

- ・「高知市民の大学」講師 (2006年4月21日)
- ・「浅井力也の世界」高知展実行委員会委員長 (2006年6月16-21日)
- ・無認可保育所四国ブロック研修会分科会助言者 (2006年7月17日)
- ・全国障害者問題研究会全国大会分科会助言者 (2006年7月29-30日)
- ・高知女子大学社会福祉学部「高校生のための公開講座」講師 (2006年7月31日)
- ・高知県肢体障害者協議会学習会講師 (2006年8月20日)
- ・「子どもの生活リズム向上全国フォーラム高知大会」企画プレゼンテーション審査委員 (2006年8月30日)
- ・「高知の移動サービスを考えるシンポジウム」基調講演 (2006年9月11日)
- ・高知県民生委員児童委員協議会連合会ブロック研修基調講演・コーディネーター (2006年10月16-23日)
- ・高知県社会就労センター協議会研修講師 (2006年10月21日)
- ・高知市公立保育所研修講師 (2006年10月25日)
- ・高知女子大学社会福祉学部レカレント教育講座講師 (2006年10-11月)
- ・社会教育高岡地区研修助言者 (2006年11月6日)
- ・本山町社会福祉大会基調講演 (2006年11月7日)
- ・高知脳外傷リハビリテーション講習会コーディネーター (2006年11月26日)
- ・「第4回嶺北地区あったかハートふれあい大会」基調講演 (2006年12月1日)
- ・仁淀川町民生委員児童委員協議会研修会講師 (2006年12月7日)
- ・土佐町「平成18年度生き生き大学」シンポジスト (2006年12月10日)
- ・社会教育主事研修講演 (2006年12月20日)
- ・安芸市保育士会講演 (2007年1月5日)
- ・「高知市民の大学」講師 (2007年2月2日)
- ・土佐清水市地域福祉研修会コーディネーター (2007年2月3日)
- ・高知医療生活協同組合学習会講演 (2007年1月14日)
- ・「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」実行委員長 (2007年2月10-11日)

- ・高知市民生委員児童委員協議会研修コーディネーター (2007年2月14日)
- ・須崎市地域福祉研修講演 (2007年2月23日)
- ・「高知の移動サービスを考える会」公開学習会講師 (2007年2月28日)
- ・高知市精神障害者家族会研修講演 (2007年3月4日)
- ・日高村教育委員会高齢者学級講演 (2007年3月28日)

○総合評価と課題

赴任1年目ということもあり、新しい環境へ順応することに追われた1年と言える。社会福祉系専門科目を多く担当することになったので、社会福祉専門学部にふさわしい教育能力の質的向上に向けた努力が今後、一層必要と自覚している。一方、研究面に傾注する時間があまりとれなかったため、自戒しつつ、研究面でも今後一層の研鑽に努めたい。社会的活動は、従来とさほど変わらない程度に定着している。

吉野 由美子

Yumiko YOSHINO

○研究活動

(1) 学術論文

- 1 吉野由美子「高知県の実情に適した連帯づくりをめざして」『眼紀』57, 272～277, 2006年
- 2 吉野由美子「年齢と疾患によるケアの特徴ー地域連携ー」樋田哲夫編『ロービジョンケアガイドブック』文光堂, 174～177, 2007年3月

(2) テキスト

吉野由美子「第3章障害者福祉論」井村圭壮・藤原正範編著『日本社会福祉史』勁草書房出版, 2007年2月

(3) 学会発表

- 1 「高知県におけるロービジョンケアシステムづくりから見えてきたことー合同学会への発表を契機とする医療・福祉従事者の相互学習から見えてきたことー」第15回視覚障害リハビリテーション研究発表大会・第7回日本ロービジョン学会合同会議一般講演(東京) 2006年9月
- 2 「高知県における視覚障害者自立支援システムの実態ーニーズを媒介とするシステムづくりを中心としてー」第15回視覚障害リハビリテーション研究発表大会・第7回日本ロービジョン学会合同会議指定ポスター発表(東京) 2006年9月
- 3 「高知県における視覚障害者自立支援システムの実態」第8回全国視覚障害早期教育研究会岐阜大会(岐阜市) 2007年2月
- 4 「地域の資源を活性化し高知県における視覚障害者自立支援システムをつくって行く過程で見えてきたこと」日本福祉文化学会第8回中国・四国ブロック大会(広島県福山市) 2007年3月

○教育活動

(1) 講義

社会福祉学部の専門科目では、児童福祉論Ⅰ・障害者福祉論Ⅰ・社会福祉史Ⅰを2年生前期で、児童福祉論Ⅱ、障害者福祉論Ⅱ、社会福祉史Ⅱを2年生後期で講義した。又、共通教育科目「福祉の世界」の責任者として前期5コマ、「土佐の健康と福祉」の責任者として前期2コマ担当した。

(2) 演習科目と実習

3年生4年生担当科目として社会福祉専門演習1と2で卒業論文指導を行った。

○各委員会活動(学部委員会を含む)

- 1 全学部的には、広報委員として、オープンキャンパスの企画を行った。また、紀要編集委員として紀要の編集を行った。
- 2 社会福祉学部においては、学部広報担当として学部のオープンキャンパスの企画運営、紀要編集担当として、学部の紀要原稿の募集、編集を担当した。

○社会的活動

①講習会・講演会活動

- 1 2006年8月8日 「視覚障害者の自立と盲学校教育の役割」
石川県立金沢盲学校夏季全体研修会での講演（金沢市）
- 2 2006年8月9日 「父兄との懇談会、事例検討会講師」
石川県立金沢盲学校夏季研修会（金沢市）
- 3 2006年9月16日 「視覚障害に関する福祉・教育の施設・制度の過去と現状」
第15回視覚障害リハビリテーション研究発表退会
第7回日本ロービジョン学会合同会議教育セッション講師（東京）
- 4 2006年10月14日 「視覚障害児(者)のための見え方や生活についての相談会」
高知県立盲学校主催の講師（高知県安芸市）
- 5 2006年10月22日 「地域に即した視覚障害児・者支援のためのネットワークづくり
活動を通して見えてきたこと」
岡山県視覚障害者を考える会特別講演講師（岡山市）
- 6 2006年11月28日 「身体障害者福祉概論」
手話通訳者養成講座基本課程講師（高知市）
- 7 2006年11月30日 「ソーシャルワーク概論」
手話通訳者養成講座基本課程講師（高知市）
- 8 2007年1月21日 「視覚障害児(者)のための見え方や生活についての相談会」
高知県立盲学校主催の講師（四万十市）

②依頼された審議会など

- 1 高知市障害者計画推進協議会委員・委員長に選任される
平成12年3月25日から現在に至る
- 2 高知県障害者施策推進協議会委員
平成12年5月から現在に至る
- 3 高知県医療審議会委員
平成12年8月1日から現在に至る
- 4 社会福祉法第83条に規定する運営適正化委員会委員
平成12年11月1日から現在に至る

本年度は、障害者自立支援法の実施に伴い「高知市障害者計画推進協議会」の福祉サービス計画の策定に、もっとも多くのエネルギーを注いだ。また、「運営適正化委員会」の活動にも、時間を割いた。

③ 視覚障害リハビリに関する活動

- 1 昨年に引き続き、療育福祉センターの依頼を受け、視覚障害者向け巡回相談に相談員として出向いた。（2回）
- 2 2006年6月に行われた、第5回高知福祉機器展（バリアフリーフェスティバル）という総合福祉機器展に、視覚・聴覚ブース担当者として参加するだけでなく、総合企画に参加し、視覚・聴覚に関連する機器を展示するとともに、福祉機器展の総合的運営にも協力した。

○総合評価及び今後の課題

平成18年度も引き続き、私のライフワークである「視覚障害リハビリテーション」に関する実践活動に重点をおいて活動を行った。それと共に、昨年視覚障害リハビリテーシ

教育研究活動年度報告書

ョン協議会と日本ロービジョン学会の合同会議でシンポジストとして発表したものを論文化したり、障害者福祉史のテキスト執筆依頼を引き受けたことから、実践活動だけでなく、停滞していた研究活動や執筆活動にも力を注ぐことができ、研究活動・地域貢献活動においては満足いく成果が得られたと自己評価している。

しかしながら、学外の活動に追われて、教員として学生の教育については、今ひとつ力を尽くすことができず、多くの改善点を残したと考える。来年度は、卒業学年を担当し、進路の指導などにも関わることも多くなるので、教育活動により力が注げるように、仕事の配分を考えて行くつもりである。

宮上 多加子

Takako MIYAUÉ

○研究活動

(1) 論文

宮上多加子(2007)「家族介護者の認知症介護に関する認識の変容プロセス」『高知女子大学紀要社会福祉学部編』56, 1-11.

(2) 学会発表

宮上多加子(2006)「家族の認知症介護実践力向上を目指す教育的支援の検討—認知症高齢者と介護に対する介護者の認識の変容を中心に—」第7回日本認知症ケア学会大会(札幌).

○教育活動

講義の概要

[学部]

1. 「介護概論」「介護演習Ⅰ」「介護演習Ⅱ」
「介護演習Ⅰ」「介護演習Ⅱ」では、学内および学外での体験型授業や視聴覚機器を用いた内容を多く取り入れた。
2. 「保健福祉論」「高齢者保健論」「母子保健論」
「保健福祉論」を履修した後に、「高齢者保健論」や「母子保健論」を履修することが望ましいが、時間割の組み方や学生の興味関心の変化により、受講者数や履修の順にばらつきが生じている。今年度は、これらの科目の総論から各論という位置づけを再検討し、各科目の内容を一部変更した。
3. 「ケアマネジメント演習」
事例を用いて演習形式により講義を実施した。
4. 「社会福祉専門演習Ⅰ－a・b」
本年度の受講者は5名である。研究活動に関する基礎的な力を身に付けることができることを目標とした継続的な指導とともに、岡山県笠岡市の高齢者福祉施設の見学やリカレント特別講座への参加などを行った。
5. 「社会福祉専門演習Ⅱ－a・b」
本年度の受講者は2名である。なお、社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱの実施内容の詳細については、ゼミ記録として冊子にまとめた。
6. 「保育学(実習および家庭看護を含む)」
生活科学部にて開講されている科目であり、文化学部北川明教授と分担して担当した。

[大学院(人間生活学研究科)]

1. 「介護福祉学」
大学院非常勤講師の横山正博教授と分担して担当した。
2. 論文指導(副査: 1名)

教育研究活動年度報告書

○委員会活動

[学部]

1. 総務・予算委員会（委員長）
2. 教務委員会（教職部会委員）

[大学院（人間生活学研究科）]

1. 学務委員（社会福祉領域）

○社会的活動

1. 高知市民生委員推薦会委員
2. 日本地域福祉学会地方部会委員
3. 日本認知症ケア学会生涯学習委員会四国部会委員

○公開講座等

1. オープンキャンパス体験授業講師（8月）
2. 高知県社会福祉協議会介護福祉士養成講座講師（9月）

○総合評価と今後の課題

平成18年度は若い年代層の先生方を迎え、また大学改革の概要が次に明らかになっていく中で、新たな段階への準備期であったように思います。平成19年度は、学部再編のための具体的な作業が本格化する予定ですので、学部教員の中で自分の位置づけを認識して取り組みたいと考えています。

研究面においては、これまでの研究テーマである「家族の認知症介護実践力」に関する内容を発展させ、今後の学部および大学院の教育に反映させていくことが必要であると考えています。具体的な方策の一つとして、大学改革において導入が予定されている介護福祉士養成教育の中に、認知症ケアに関する内容を組み込み、大学教育における介護福祉教育を構築していく必要があると思います。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

(1) 論文

- ・「アメリカのナーシングホームにおける介護労働と質のマネジメントー看護助手による介護労働」高知女子大学紀要社会福祉学部編、第56巻、pp.13-33、2007年3月.

(2) 学会発表

なし

(3) 報告書

- ・「平成18年度長寿科学総合研究事業（厚生労働科学研究費補助金）H16-長寿-029『介護老人保健施設及び介護療養型医療施設における経営実態及びマネジメント実施状況に関する研究』総括研究報告書」（主任研究者・小山秀夫）2007年3月：分担執筆部分「消費者主導型介護現金給付の展開ー国際的動向とイギリスを例にー」（印刷中）
- ・社団法人シルバーサービス振興会「介護サービス事業者における経営品質のあり方に関する調査研究事業「介護サービス事業者における経営品質のあり方に関する調査研究事業 報告書」2007年3月：分担執筆部分「第VI章 介護サービス分野における経営品質についての検討 2. 介護の質の評価に関する国際的動向ーオーストラリアを例に」（印刷中）

(4) 研究資金の導入

- ・平成18年度ユニバーサル財団研究助成（『豊かで活力ある長寿社会の構築をめざして』①長寿社会における社会保障制度・政策、経済）「高齢者の主体的な参加による高齢者保健医療福祉分野のガバナンスの構築に向けてーイギリスの事例を中心に」（平成18～19年）

○教育活動

(1) 「社会福祉概論Ⅱ」「社会福祉概論Ⅰ」

社会福祉に関わる基礎的な概念と歴史的発展および現在の社会福祉制度、事業、実践活動等を包括的に捉えるため、社会福祉士国家試験問題の活用や年表・ワークシート等の教材を作成し、知識の定着を図ることに主眼をおいた。

(2) 「国際福祉論Ⅰ」

近年の先進4ヶ国の介護制度改革を取り上げ、各国の歴史的文化的社会的コンテクストと改革の示す価値理念に言及し、比較の視点を涵養するように努めた。

(3) 「国際福祉論Ⅱ」

発展途上国における児童と女性の問題に焦点を当て、人権侵害の問題やそれらに対する国際的な取り組みの現状を取り上げた。講義の一部は、学生が自ら関心のあるテーマを主体的に調べ、発表する演習方式でおこなった。

(4) 「社会福祉外書講読Ⅱ」

各自関心のあるテーマに関する文献を講読し、抄訳と用語を小冊子「英語で読む社会福祉」第4号にとりまとめた。

(5) 「社会福祉基礎演習Ⅱ」

学年担当として、研究法に関するオムニバス講義のコーディネートをこなした。

教育研究活動年度報告書

(6) 「社会福祉専門演習Ⅰ－a・Ⅰ－b」

認知症高齢者グループホームを題材に、施設訪問（現場での課題の発見）と先行研究に関する継続的な読解および討論を通して、問題への感受性を養い、各々が根拠を以て独自の意見を構築していくための土台づくりに努めた。

(7) 「社会福祉専門演習Ⅱ－a・Ⅱ－b」 （後期の論文指導を担当）

(8) 「女性の生活と健康」（オムニバス）

少子化と子育て支援施策の現状について取り上げた。

(9) 大学院人間生活学研究科「国際福祉政策論」

非常勤講師（静岡県立大学小山秀夫教授）とともに、日本・イギリス・ドイツを事例として持続可能な介護政策に関する国際的動向およびニュー・パブリック・マネジメントについて講義した。

○ 委員会活動

- ・ 全学学部入試実施委員、全学入試委員長（4月～8月）、全学国際交流委員
- ・ 学部入試委員・総務委員・予算委員

○ 社会的活動

(1) 委員等

- ・ 高知県社会福祉協議会「指定認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）外部評価審査委員会」委員長
- ・ 高知県保健福祉課「福祉サービス第三者評価推進委員会」オブザーバー
- ・ 高知県佐川町公文書開示審査会委員、高知県佐川町個人情報保護審査員
- ・ 財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団運営委員会委員
- ・ 社団法人シルバーサービス振興会 平成18年度長寿社会福祉基金事業「介護サービス事業者における経営品質のあり方に関する調査研究事業」委員

(2) 公開講座等

- ・ 高知女子大学リカレント講座「社会福祉施設における評価の活用－サービス評価と介護サービス情報の公表を中心に」（2006年11月11日）

○ 総合評価と今後の課題

- ・ 学内委員会活動として、前期のみであるが、全学入試委員長を担当させていただいたことが良い経験となった。当初は責任の重さが身に不相応でないかと感じたが、副委員長はじめ委員の先生方や学生部長および学部長からのご協力をいただき、入試3委員会（入試委員会、入試実施委員会、センター試験実施部会）の所掌事項と組織体制の整合を図るために規定を改定することができた。また、全国的な入試関係会議等への参加により、大学入試の動向を知り、入試に関する長期的戦略的な方針の必要性を感じた。
- ・ 大学院修士課程の講義を担当して2年目になり、院生とのコミュニケーションも徐々に増えつつある。多忙な社会人学生に対して、現場の問題解決につながるものが提供できるのか、自らの研究のスタンスが問われてくると思う。講義内容に現場との接点が必要であるとともに、指導の面では論理的構成力の伝達が求められる。学部教育も含めて、教育資源として「豊か」になることが今後の課題である。
- ・ 研究の面では、日々の研究活動の継続と成果（アウトカム）の公表が継続的な課題である。

玉里 恵美子

Emiko TAMAZATO

○研究活動

(1) 博士学位請求論文

博士 (社会学) : 龍谷大学大学院乙 52号 : 2006年9月取得。

「高齢社会における平地農村と過疎山村の集落社会構造に関する比較研究
— 家族・村落の変動とそれに伴う相互扶助の変質 —」

(2) 論文 (共著)

埴田久美・玉里恵美子「近代的児童福祉観の形成過程に関する考察」『ふまにすむす』
第18号、2007年3月。

(3) 研究ノート (単著)

玉里恵美子「韓国孤児のオモニ・田内千鶴子さんから学ぶ」『ふまにすむす』第18号、
2007年3月。

(4) 報告書 (アドバイザー)

室戸市『室戸市地域福祉計画』2006年11月。

(5) 文献紹介

山根常男・玉井美知子・石川雅信編著『テキストブック家族関係学— 家族と人間性 —』
ミネルヴァ書房 2006年についての文献紹介を、日本家族社会学会編『家族社会学研
究』第18号 (2)、2007年2月。

(6) 新聞掲載 (エッセイ)

『農業共済新聞』ズバリ直言欄、「自然を知るチャンス奪わないで」(2006年4月26
日)、「ボランティア・ツーリズムのすすめ」(6月28日)、「本当においしいものは
地元にある」(8月30日)、「高齢者と子どもの交流を増やそう」(10月25日)。

(7) その他

「土佐の女性・福祉・歴史研究会」主宰 (準備段階)

○教育活動 (2006年度は前期のみ)

(1) 学内担当講義

社会科学入門 :

社会福祉援助技術各論Ⅱb

社会福祉援助技術演習Ⅳ

社会調査演習Ⅱ

社会福祉専門演習 (ゼミ) Ⅰa・Ⅱa

オムニバス : 福祉の世界 (共通) : よさこいの福祉力

オムニバス : 土佐の健康と福祉 (共通) : 中山間地域の高齢化と過疎化

(2) 担当講義以外の学内講師

リカレント教育講座「田内千鶴子さんを知っていますか？」(11月25日)

リカレント教育講座特別講座「ユニットケアはこれからです」司会 (12月9日)

(3) 卒業論文指導

小川真世 : 「高知県の民生委員・児童委員による役割と課題に関する認識— 意識調査デ
ータの多変量解析を中心に —」

教育研究活動年度報告書

岡田阿子：「専業主婦の育児不安・育児ストレスと社会的サポートの検討—高知市における育児サークルの聞き取り調査をもとに—」

浦中萌和：「地域特性に応じた子育て支援活動の課題—市街地と中山間地域における子育て支援活動を中心に—」

田中優子：「地域での世代間交流が民生委員の「生きがい感」に与える影響—X村の世代間交流活動を事例に—」

(4) 学内学生生活活動支援

グローバルクラブ（日韓学生よさこいチーム Japarean）顧問

(5) 学外非常勤講師

放送大学高知学習センター面接授業「過疎地域の高齢者・家族・福祉」

○委員会活動（2006年度は前期のみ）

(1) 学内委員会活動

1. 全学地域創成委員会
2. 学部地域共生委員会
高校生のための公開講座コーディネーター
リカレント教育講座コーディネーター

(2) 学外委員会活動

1. 高知県農林水産部：高知県農業経営・生産対策等に関する第三者委員会
2. 高知県社会福祉協議会：評議会（評議員）
3. 高知県社会福祉協議会民生・地域課：高知県地域福祉活動推進委員会（委員長）
4. 高知市高知駅周辺都市整備課：高知駅周辺拠点街区まちづくりアイデア募集評価委員会
5. NPO 高知市民会議&四国銀行：高知市まちづくりファンド運営委員会
6. 室戸市：地域福祉計画策定アドバイザー
7. 大豊町：大豊町行政文書開示審査会委員
8. 大豊町：大豊町行政諮問会議
9. 高知田内千鶴子愛の会

○その他

(1) 資格取得

統計士（第 640433 号）：実務教育研究所「現代統計実務講座」2006 年 11 月取得。

(2) 出産に伴う休暇および休業

産前産後休暇 2006 年 6 月 26 日から 10 月 17 日まで

育児休業 2006 年 12 月 11 日から 2007 年 7 月 31 日まで

西内 章

Akira NISHIUCHI

○研究活動

著書

1. 西内章 (2005) 「社会福祉援助技術の展開過程」井村圭壮編『社会福祉援助の基本体系』頸草書房.

○教育活動

(1) 講義

- ① 「社会福祉援助技術総論Ⅰ」
- ② 「社会福祉援助技術総論Ⅱ」
- ③ 「高齢者福祉論Ⅰ」
- ④ 「高齢者福祉論Ⅱ」
- ⑤ 「社会福祉援助技術演習Ⅰ」
- ⑥ 「社会福祉援助技術演習Ⅱ」
- ⑦ 「社会福祉ふれあい実習」
- ⑧ 「社会福祉現場実習Ⅰ」
- ⑨ 「社会福祉現場実習Ⅱ」「社会福祉現場実習Ⅲ」
- ⑩ 「社会福祉専門演習Ⅰ-a」「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
- ⑪ 「社会福祉専門演習Ⅰ-a」「社会福祉専門演習Ⅰ-b」

(2) 委員会活動

- ① 学部就職委員長
- ② 学部実習委員長
- ③ 学部入試監査委員
- ④ 4回生学年担当 (7月～3月)

○社会的活動

- ① 高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座講師
- ② 高知市保育士会職員研修講演「対人支援職のディレンマについて—ソーシャルワーカーの視点から—」(2006年7月29日)
- ③ 特別養護老人ホーム三宝荘職員研修講師「対人支援職における倫理について—自分の力量について考える—」(2006年8月30日)
- ④ 医療法人 仁生会 SW連絡会全体会講演「エコシステム視座による「連携」とソーシャルワーカーの役割」(2006年9月21日)

○総合評価及び今後の課題

(1) 授業について

学生にわかりやすいようにビデオや資料を工夫するように心がけた。コメントカードを配布し、学生から授業の感想や要望を収集し、授業改善を行った。今後も個々の授業内容、教材を見直していく。

教育研究活動年度報告書

(2) 学部業務について

4月8日から7月14日まで国内研修のため、学内業務に携わることはなかったが、研修終了後は、4回生の学年担当として、就職・国家試験、実習にともなう学生支援を行った。4回生時には、就職活動、受験勉強、精神保健福祉援助実習を並行して進めていくが、それぞれの状況を確認しながら、生活相談、進路相談支援を行った。

(3) 国内研修について

龍谷大学大学院社会学研究科で国内研修を行った。高齢者生活支援に携わる社会福祉士のディレンマの枠組みについて、文献研究ならびにインタビュー調査を行った。

(4) 研究活動について

2006年度は、教育活動、教務業務、研究活動を効率的に進め、特に研究活動の時間をつくることであった。国内研修においては、研究活動に専念できたが、後期は担当科目が多かったこともあり、教育活動や学内業務と並行し、十分な研究活動が行えたと言えない。

鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

○研究活動

(1) 学術論文

なし

(2) 著書

石川到覚, 鈴木孝典 (2006) 「ケースワークの展開過程」日本精神保健福祉士養成校協会編『精神保健福祉士養成講座⑥ 精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版, 2-22.

鈴木孝典 (2006) 「障害者介護の特徴と留意点: 精神障害のある人への対応」訪問介護員養成研修2級課程テキスト編集委員会編『ホームヘルパー2級テキスト⑭ 介護事例検討』財団法人介護労働安定センター, 18-19

(3) 研究資金の導入

文部科学省科学研究費・若手 (B), 「精神障害者地域生活支援サービスにおけるリスクアナリシスに関する研究」(2005年4月～2007年3月)

(4) 研究協力

精神障害のある方の地域生活ニーズ調査—香南市において(財団法人高知県福祉基金助成事業, 調査実施者: 社会福祉法人土佐あけぼの会) 2006. 11

藤沢市地域生活支援センターニーズ調査(調査実施者: 社会福祉法人藤沢ひまわり) 2006. 12

○教育活動

(1) 講義

- ・「教養セミナー」
- ・「現代社会論」
- ・「精神保健福祉論」
- ・「精神保健福祉援助実習」
- ・「精神保健福祉ふれあい実習」
- ・「社会福祉入門演習Ⅰ」, 「社会福祉入門演習Ⅱ」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ-a」, 「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ-a」, 「社会福祉専門演習Ⅱ-b」

(2) 講義以外

- ・ 実習支援:
配属実習に備えての実習の動機, 課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。
- ・ 国家試験受験者への学習支援
精神保健福祉士国家試験受験者に対して, 受験対策講座を開講した。

○委員会活動等

(1) 学部

- ・ 教務委員
- ・ 実習委員

教育研究活動年度報告書

- ・ 総務・予算委員
- ・ 1回生学年担当

(2) 全学

- ・ 学生委員（学部委員長）
- ・ 共通教育専門委員（全学副委員長）
- ・ 総合情報センター情報処理部会員

○社会的活動

(1) 委員等

- ・ 高知県社会福祉士会 理事（2006年4月～）
- ・ 高知県精神医療審査会 委員（2006年4月～）
- ・ 日本精神保健福祉士養成校協会 広報委員（2006年6月～）

(2) 講演等

- ・ 高知女子大学社会福祉学部「高校生のための公開講座」 講師（7月31日）
- ・ 平成18年度 高知県相談支援従事者初任者研修 講師（8月23日）
- ・ 神奈川県精神保健福祉士協会「若手研修会」 講師（10月20日）
- ・ 高知県社会福祉協議会「介護福祉士養成講座」 講師（10月30日）
- ・ 高知女子大学社会福祉学部「リカレント教育講座」 講師
（11月21日，2月28日）
- ・ 高知県精神保健福祉士協会「PSW勉強会・合宿」 講師（2月17日，18日）

○総合評価及び今後の課題

(1) 授業について

今年度より本学において講義を担当することとなり、授業準備に追われる1年間であった。講義科目においては、学生の体系的かつ効率的な理解を助けることを目的に、パワーポイントやビデオなどの視聴覚教材を積極的に活用した。演習、実習科目では、学生自身が学習に対するモチベーションを維持しつつ、主体的に授業へ参加できるように、グループ学習とプレゼンテーションの機会を適宜、設けた。

しかし、学生による授業評価や教材評価の把握、授業の進行についての意見交換など、授業の改善に向けた取り組みについては不十分であったと反省する。したがって、平成19度はリアクションペーパーや授業評価を活用し、学生の授業に対するニーズの把握に努めることを課題とする。

(2) 研究活動について

今年度は、前任地をフィールドとした研究が展開途上にあり、さらに先述のとおり授業運営に多くの時間を費やしたことから、効率的な研究活動が実施できず十分な研究成果を挙げることが出来なかった。平成19年度は、高知県に根ざした研究活動を展開し、地元へ貢献する研究成果を積み上げることを課題とする。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

(1) 学会参加

日本社会福祉学会、日本社会福祉実践理論学会への参加

(2) 研究会参加

エコシステム研究会（関西福祉科学大学大学院太田義弘教授が主催）への参加

○教育活動

(1) 担当科目

- | | |
|------------------|------------------|
| ・「総合演習」 | ・「地域福祉論」 |
| ・「社会福祉援助技術各論Ⅰ-a」 | ・「社会福祉援助技術各論Ⅰ-b」 |
| ・「社会福祉援助技術各論Ⅱ-a」 | ・「社会福祉援助技術演習Ⅲ」 |
| ・「社会福祉専門演習Ⅰ-a」 | ・「社会福祉専門演習Ⅰ-b」 |
| ・「社会福祉専門演習Ⅱ-a」 | ・「社会福祉専門演習Ⅱ-b」 |
| ・「社会福祉ふれあい実習」 | ・「社会福祉現場実習Ⅰ」 |
| ・「社会福祉現場実習Ⅱ」 | ・「社会福祉現場実習Ⅲ」 |

○委員会活動

(1) 全学

- ・広報プロジェクト委員
- ・入試実施委員
- ・センター試験部会委員
- ・人権委員

(2) 学部

- ・実習委員（日本社会福祉士養成校協会担当）

○社会的活動

- ・日本社会福祉士養成校協会中四国ブロック 副運営委員長
- ・高知女子大学社会福祉学部高校生夏期公開講座 講師
- ・高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座 講師

○総合評価及び今後の課題

(1) 研究活動について

今年度は、本学部教員として初年度で教育活動や委員会活動に慣れ、専念することが最優先であった。そのため研究活動については、学会・研究会参加にとどまり、結果的に十分な時間を割くことができなかった。しかし特に研究会では、社会福祉サービス利用者の生活状況理解のための方法と、その方法に基づいたコンピュータ支援ツールの研究と開発に継続的に参加できており、有意義な時間をもつことができた。今後は、共同研究者とその成果を公表していきたい。そのうえで自身の研究テーマ「コンピュータ支援ツールを用いた知的・発達障害のある人との協働アセスメント方法の構築」を進展させていきたい。

教育研究活動年度報告書

そのために文部科学省科学研究費などの外部資金獲得や、研究フィールドの開拓などによって、研究環境を整えていきたいと考えている。

(2) 教育活動について

授業準備：

授業では、レジメを作成・配布し、学生が重要なポイントを理解できるように工夫した。またレジメの他にも資料を配付し、学生の理解度を高めるように努力したつもりであるが、今後も継続した改良が必要である。また社会福祉に関するDVDを用いて、口頭では伝えきれない時代背景や障害の実態、生活支援状況などを視覚的に学ぶことができるように工夫した。

授業展開：

授業のなかでは、学生たちの「聞く」「見る」「話す」「書く」をバランス良く表現でき、「理解する」「考える」「体験する」ことができるような工夫が必要だと感じている。また特に理論と実践を十全に融合し理解できるような工夫を今後も重ねていきたいと考えている。

社会福祉現場実習指導：

まず事前学習では、ソーシャルマナーや記録の書き方、個人情報保護についての学習を基礎に、実習への動機を高め、効果的な実習を行うための指導や相談を今後も丁寧に行いたい。そのためにも高知県下の実習先についての情報を継続的に把握することが重点課題である。また事後学習については、現場で得てきた経験の振り返りや意味づけを重視した指導に努めたい。実習の事前・事後学習ともに、少人数制を活かし、face-to-faceでの個別指導や、学生同士がお互い共感や考え方を深めていくことができるようなグループ学習を重視し、その効果についても検討していきたい。

(3) 委員会活動・社会的活動について

本年度は、委員会活動・社会的活動の業務を覚え従事することに努めた。今後も努力と経験を重ね、委員会活動・社会的活動を通じて、学内はもちろん地域や社会に貢献できるように取り組んでいきたい。

太田 こずえ

Kozue OTA

○研究活動

(1) 論文

太田こずえ「障害のある若者の社会的自立 - 親と暮らす身体障害者の日常生活と将来展望 -」高知女子大学紀要社会福祉学部編、第56巻、p.35 - 47、2007年3月

(2) 報告書 (分担執筆)

『プロジェクト企画調査 報告書 (ウズベキスタンにおける障害当事者および障害者支援団体 (NGO) 調査)』特定非営利活動法人「飛んでけ! 車いす」の会 (外務省国際開発協力関係民間公益団体補助事業)、2006年3月、執筆担当分は、「1. 調査の概要」「2. 訪問団体・施設の概要」「3. NGOミーティングでの質疑応答」(p.10 - p.14) 共同執筆者: 太田こずえ、坂本純科

(3) その他

「未知なる国の障がい者に出会って」『ウズベキスタン フォーラム&ツアー報告書』(外務省国際開発協力関係民間公益団体補助事業) 特定非営利活動法人「飛んでけ! 車いす」の会、p.13、2006年6月

○教育活動

講義 (実習科目) : 社会福祉ふれあい実習、社会福祉現場実習 I・II・III、福祉の世界 (オムニバス)

○委員会活動

学部教務委員会、学部入試委員会、学部実習委員会、学部総務委員会、学部予算委員会

○社会的活動

(1) 委員等

- ・ 特定非営利活動法人「飛んでけ! 車いす」の会理事
- ・ 札幌市市民活動サポートセンター事業運営協議会委員 (市選任委員) (2004年10月 ~ 2006年8月)

(2) 学外講師

- ・ 国立病院機構高知病院附属看護学校非常勤講師 (「社会福祉・演習」を担当)
- ・ 高知県社会福祉協議会主催「介護福祉士養成講座」講師 (「障害者福祉論」「社会福祉援助技術」を担当)

(3) 公開講座等

- ・ 高知女子大学社会福祉学部「高校生のための公開講座」講師 (「途上国の障害者- どんな支援が必要か-」を担当)
- ・ 高知女子大学社会福祉学部「リカレント教育講座」講師 (「小規模作業所のこれからを考える」を担当)

(4) 社会福祉士および精神保健福祉士国家試験を受験する学生たちへの学習支援

教育研究活動年度報告書

- ・試験対策講座を実施した
- ・模擬試験（3回）の受験の取りまとめをし、受験後の学習アドバイスも行った
- ・年明け2泊3日の合宿に同行し、学習支援を行った

○総合評価と今後の課題

今年度より本学部に着任し、学部の諸先生方や元気な学生たちに支えられて、何とか一年を乗り切ることができた。おもに実習事務業務を中心に仕事をすすめてきた。実習の事前・事後学習に関わったのは、社会福祉ふれあい実習、社会福祉現場実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲであったが、次年度からは精神保健福祉援助実習も担当することになる。今年度の経験を生かしてよりよい実習サポートを行っていきたい。

今後の課題としては、まず第一に、実習業務とそれ以外の学部業務、教育・研究をバランスよく行うことである。今年度は、本学部の多岐に渡る助手業務を覚えるのに精一杯だった感がある。次年度は、至らない点を補えるよう努力しつつも、研究成果も残せるようにしていきたい。第二に、4回生の国家試験受験の支援である。学生たちの自主的・自発的な学習活動を基本としながらも、個別的な（あるいはゼミ単位での）働きかけを必要とする学生たちについては、どのようなサポートが行えるのかを考えなければならないと思う。このことは学部として検討していく必要があると考える。